

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774200923		
法人名	社会福祉法人 慶徳会		
事業所名	グループホームふじい		
所在地	大阪府茨木市見付山1-3-29		
自己評価作成日	平成22年3月26日	評価結果市町村受理日	平成22年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

野菜作りから食事作りまで 入居者にとって食べることは、唯一の楽しみです。四季折々の野菜を、生産して収穫し、皆さんと一緒に料理を作って、食卓をにぎわしています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774200923&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府大阪市中央区常盤町二丁目1番8号 親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年4月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームふじい」は、社会福祉法人慶徳会にある14施設の中の1施設で、平成12年4月介護保険制度が始まると同時に特別養護老人ホームの併設施設として、茨木市で最初に来たグループホームである。当事業所は地域とのつながりを大切に、自治会、福祉委員会の行事や活動に積極的に参加している。事業所内での余暇活動は非常に豊富で、歌、合奏、太鼓、ハーモニカ、演芸などがあり、年に一度、近隣の方々を招待し公民館で発表会なども行っている。事業所内の菜園でいろいろな野菜を利用者と職員が協力しあって作っている。その食材で、共にたのしく調理しているごく普通の家庭的な姿が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の人権を尊重し、地域との結びつきを重視した地域密着型サービスを目指したホーム独自の理念を、管理者、職員が十分に理解し実践につなげている	「明るく家庭的な雰囲気有し、地域や家庭との結びつきを重視した…」と事業所独自の理念を作り上げ、毎日のミーティングで話し合いながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会や福祉委員会の行事、活動に参加しており、散歩時等にも近隣の方々と挨拶を交わしたり、地域住民の一員として暮らしている	地域の祭り等行事に単に参加するだけでなく、事業所の「歌、合奏、太鼓、ハーモニカ」など各クラブの発表会に近隣の方々をお招きするなど、双方向で交流している。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域が開催する行事に参加したり、独居老人との交流会をつづじて、認知症への理解をいただくように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催している会議では利用者、家族、相談員、民生委員等、出席者全員で意見交換を行い、謙虚にうけとめ、サービスの向上に活かしている	地域包括支援センター職員、地区福祉委員、民生委員、介護相談員、利用者、家族、事業所職員等がメンバーとなって2ヶ月に一度開催されている。そこで出された意見をサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村で行う介護予防、地域で利用可能な介護予防サービスについての情報を収集、必要に応じて提供し、サービスの質の向上に役立っている	市役所の担当窓口とは2ヶ月に一度のグループホーム連絡会を通じての協力関係だけでなく、平素からことある毎に訪問し、積極的な関係づくりが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要に応じて、身体拘束しないケアに取り組み、出入口も安全のため小型受信機を設置し、不意の事態にも備えている	事業所の全職員は、身体拘束が利用者に与える精神的苦痛を良く理解し、徹底した見守りにより利用者の安全を確保しながら、抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護現場における虐待防止の教育システム等の研修をうけ、マニュアルも作成、全職員も熟知している。身体的のみならず精神的虐待にも十分注意して防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	採用時、それ以外の段階に応じた外部研修を受講できる体制が用意され、必要時には施設内研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、詳しく説明、理解していただき、納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、苦情の相談しやすいように、第三者委員会を設置しており体制を整えている。その他大阪府社協の運営適正化委員会や国保連へ相談できるよう掲示している	運営推進会議に利用者・家族が参加し意見を表す場がある。その他、行政担当窓口や国保連などを重要事項説明書に紹介したり事業所内に掲示したうえで説明もしている。また、意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、施設内の打ち合わせ等で意見、提案をだしている。また意見や提案については、十分検討し実践につなげている	ミーティングは1ヶ月に一度以上行われている。各職員は普段から気づきメモを持っていて、運営上で気づいた事を書き留めておいてケアマネに提出する。それをミーティングに諮りながら事業所の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設はできるだけ個々の要望に答えながら、時間、やりがい、給与等、各々が働きやすい環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、初級、中級、上級とわかれて各々参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の各施設と連携を密にして勉強会や研修を行っている。又同業者と相互訪問の機会を持ちサービスの向上をはかり、質の向上に向けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話や施設見学時に、本人の不安や悩みをうかがい、気軽に何でもいていただけるように配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談しやすいように第三者相談員を設置したり、相談内容に応じた機関を紹介したり連携を行う体制を整えている。必要に応じて入居者や家族との相談の機会を持っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様の意向をうかがい、話し合い等を求められているかを見極め支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護をするというのではなく、一緒に生活するという雰囲気作りをだすようにしている。利用者は人生の大先輩であり、調理、畑仕事、洋裁等をおしえてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会だけでなく、普段からできるだけ連絡を取り合い、話し合い、共に支援に協力していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の自由を支援、かわりを密にしている。ただけるよう努めている。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に自由にかかわっていただけるように、又自然なかたちでお互いを認め合っているよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの生活が難しくなり、他施設へ転居された場合も、これまでの関係を大切に、協力はおしまわず支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方々との日常の会話を大切にし、その思いを把握し希望にそうようにしている	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、毎日の関わりの中から聞き出し、演芸参加希望の人にはクラブを作り活動出来るようにするなど、可能な範囲で希望に添えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の折、これまでの生活歴や暮らし方等を、ご家族やかかわりのある方々にうかがい、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	きまりきったメニューではなく、利用者の方々の体調や心理状態に応じて過ごし方を工夫するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いの上、利用者にとって、どうすることが心地よい生活を営めるのか、話し合い作成している	事業所側からの、単に業務をこなすための介護計画ではなく、本人がその人らしく暮らし続けるために、本人、家族等や必要な関係者と話し合いながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護日誌に記入、また日々の生活の中での変化を互いに共有するため、看護日誌、きづきノート、連絡簿を作り書き込んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の春菊苑との連絡を密にして、本人や家族の要望にこたえている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館、文化行事に参加したり、ボランティアの協力を得て、季節感のある作品を作り居室に飾られている。地元の警察には、当施設の内容は把握していただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、かかりつけ医の受診を実施、支援している	受診は本人や家族等との話し合いの上、殆どは事業所の協力医をかかりつけ医としているが、馴染みのかかりつけ医の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師や併設の施設の看護師と相談しながら、日常の健康管理をしている。年2回併設の診療所で健康診断を実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携を密にして、情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と機会あるたびに話し合っているが、まだ直面していないので考えられないとの意見だが、ご本人の状態をみきわめ、ご家族やかかりつけ医と相談しながらとりにくく	利用契約時に重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の看取りに関する指針を作り説明しながら方針を共有している。その後においても、機会あるたびに話し合いながら意志を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習会に参加し、初期対応の仕方をマニュアルにまとめ、いつでも対応できるようにしている。夜勤者は事務所を離れる時は、携帯電話をもち、移動している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、時間帯も変え、定期的を実施している。地域の福祉委員や自治会の人に声かけ、理解していただいている。又非常用持ち出し袋も用意している。	消防署指導の下に行う避難訓練を含め年6回、色々な想定をしながら避難訓練、避難経路の確保、消火器の使い方の訓練を行っている。しかし、自治会に協力体制の依頼はしているが訓練への参加は実現していない。	色々な想定をしながらの訓練を、さらに実のあるものにして行くために、地域自治会の訓練への参加を実現させて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前でのプライバシーを損ねる言葉かけをしないように、さりげない介助、その人に応じた質問方法等に気配りしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、介護が必要なときもさり気ない介助や、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けを行っている姿が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者とのコミュニケーションを密にし、又表情や身体反応からも希望の把握を心がけ、散歩や買い物支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、朝食時間、散歩、就寝時間等、その方のペースを保ちながら、日々の生活をされるように、ゆっくり支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の散髪支援、好みの服装や化粧品で、身だしなみを整えられるよう見守っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みなさんの好みの料理を聞き献立に取り入れ、利用者と職員と一緒にコミュニケーションをとりながら、食事の準備やかたづけを行っている	業者が配達してくれる食材を利用者の好みを聞きながらアレンジして、共に調理や盛りつけ、セッティングを行いながら楽しく食事をしている。事業所の畑で取れた野菜も使われていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリーや栄養、好み等を考え献立をたてている。水分量は常に意識して支援しており、摂取能力、嚥下状態も考慮し、それぞれに応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄、消毒等、一人ひとりに応じた支援をしている。週一回歯科衛生士による口腔ケア、検診を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後の排泄パターンを把握しての、さりげない声かけにて失敗回数を減らし、トイレでの排泄を支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握して、さりげない言葉がけによるトイレ誘導をしながら、排泄の自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食材を多くとりいれたり、水分摂取にも気をつけているほか、散歩やレクリエーションで身体をうごかし、予防を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応週3日としているが、時間帯ともに臨機応変の対応を心掛け、希望によりシャワーも随時実施している。	基本的には週に3回、月水金曜日の午前(10時から12時)か午後(13時30分から16時30分)と決めているが、希望によって臨機応変の対応を心がけているが充分ではない。	曜日や時間帯を設定せずに、利用者一人ひとりの希望に合わせた、入浴を楽しむことの出来る支援が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度調節に配慮し、気持ち良くねむっていただけるようにしている。談話コーナーでのおしゃべりやテレビをみたり、お茶を飲んだり、ゆっくりすごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳、薬リストに内容はつづり、変化のあった時は、看護日誌に記入し全員が確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、調理、食器洗い等の日課の中で、その方の力を活かした役割を果たして頂いている。交流会やレクリエーション、クラブ活動等に参加し、楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は希望者をつのり、散歩を実施している。近所のスーパー等にも買い物に職員同行で行っている。ご家族とのお墓参りや買い物等も随時お願ひし実現している	その人らしい暮らしを続けて行くために、出来る限り希望に添いながら、近隣を散歩するだけでなく馴染みの場所へ出かけたり、家族の協力を得て墓参り等を支援したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じてお金を所持し、買い物やホーム喫茶に行き使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて電話をして、家族様と自由に話せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り物、花、掲示物、作品等をさりげなく配置し、トイレや浴室には、わかりやすく表示などを工夫している	居間は天窓から自然の光や風を採り入れてあり、明るく非常に爽やかである。また、テーブルには事業所の畑に咲いている季節の花が生けてあったり、壁に利用者と職員が協働で作った掲示物が貼ってあるなど、生活感季節感に溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチや談話コーナーなど、好きな場所でおしゃべりしたり、お互いの居室に行き来したりおもいおもいにすごしておられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具やその方にとって大切な思い出の品、使い慣れたものなどをおき、おちついて過ごせるよう支援している	居室は、利用者の使い慣れた家具や仏壇、家族の写真など、思い出の品々が持ち込まれ利用者が居心地良く過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所の目印は利用者の目線の合った位置に大きくわかるようにしている		